

あは七世の祖河崎可水八元和八廿月始太師の里保園の館  
ありての五條此巻も居とて一大同舎乃始祀り正保  
三のう世とのう月毎と祀り各材園ありの在屋貞徳  
翁の門に入梅月亭の号と流りい名小氏の一字とみち月  
可水と号し兼應二跡生の末七日ちふよ世と去世に命よ  
よてけ駅の宝樹山講海堂の碑を建宝樹院紀公科道智居士  
と号号とありては頭の名も同一と云々十之日遷化  
終ふとも百金一五十の多忌とありては高祖母  
貞信大姉の美舟と云の月百めくくの多高祖の同し  
月下の九月八廿父寂照院の小洋忌日とありては今やいふ  
亡社の志を願きはやくも赤傘の滝と昔一梅月亭乃  
却ありてくせさくせさくをて終ふ古の河資の因に扮園  
七世花下の咏と希い浅生有世の西宗道不苦吟とをい古  
句と後い版と付小の号と終ふ是ルも追福とはありて

慶安四年貞徳公科撰良徳著

崑山集十一秋之部 故人梅月亭 可水

長生と下戸もちとせよ菊の酒

とみちらりあのくくは 此 可水七世編 風左

月の亭は一との葉のとり出く 萃下七世 貞屋

追悼

来し多よ志しと日や秋乃らる 和是五條 梅月亭 風左

あの中のみ其たりと向く 同可水七世編 其栖

同

秋すきむらりとくふの多白 浅生葎 浪速 排醉

月とやてむくを葉の白く 洛材園 本非岳

あな名や百と十とさくみ秋 本の左屋

享和二戌秋